**梅毒について**

* **梅毒とは？**

梅毒トレポネーマという細菌が、主に性行為（口腔性交や肛門性交を含む）などの性的接触により感染します。

性器などにしこりや潰瘍ができた後、手のひらや体中に発疹が現れます。いったん症状が消えても、病気は進行しています。

治療せずに数年が経つと血管や皮膚、神経などに病変が生じます。

一度治っても、再び感染することがあります。

妊娠中に梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、死産や早産、障害をもって生まれることがあります（先天梅毒）。

* **梅毒にかからないためには**

コンドームの適切な使用が感染予防に有効です。

早期に治療すれば、抗菌薬によって治すことができます。

* **どうやって感染するの？**

性行為等により、皮膚、粘膜の微細な傷口から感染します。キスでも感染の可能性があります。

※　精液、血液、膣分泌液、皮膚のただれ等から感染しますが、一般の生活での接触程度では、感染する心配は、ほとんどありません。

先天梅毒の場合、胎児の時に子宮内で母親から感染します。

|  |
| --- |
| * **梅毒の症状**
 |
| **感染した日** | 症状はありません。 |
| Ⅰ期 | **感染後３週間程度** | 唇、口の中、陰部、肛門等にしこりができます。痛みがなく、あっても軽いので自覚しないことがあります。しこりが腫れて潰瘍になることもあります。治療をしなくても自然に消えたりすることがあります。 |
| Ⅱ期 | **Ⅰ期の症状出現から****４週～１０週間程度** | 発熱、頭痛などの症状が現れます。手や足の裏を中心に全身に痛みやかゆみのない赤い発疹が出ます。しばらくすると自然に消えます。 |
| **感染後数年～数十年程度** | 皮膚に大きめのしこりが出てきます。心臓、血管、脳などの臓器がただれ、死に至ることもあります。 |

梅毒の流行を止めるためには早期診断・早期治療が重要となります。

梅毒は色々な症状が現れるため、少しでも疑わしい症状があれば医療機関に受診してください。

* HIVとの関係

梅毒とHIV感染はどちらも性行為で感染するため、重複感染の可能性があります。

ＨＩＶは、もともと感染力が弱いウイルスなのですが、梅毒で粘膜に傷や潰瘍があるとＨＩＶに感染する確率が高くなります。